

なぜ核兵器が使われないのか？

ここで述べることは一つの仮説ではあるが、かなり確かな仮説だと私は信じている。

核兵器が使われるのを待っているわけではない。しかしなぜ、これだけキチガイじみた暴力の世界で、核兵器が今に至るまで使われないのか？ これは当事者の自制や理性によるものではないと思う。これまでの世界情勢を見ていると、「彼ら」は破壊と殺戮をやめる気は全くないことがわかる。停戦協定は常に形だけだった。国内ではどんな手を使ってでも、戦争屋クリントンを当選させ、国外では是が非でも“敵枢軸国”を大戦争に引き込む構えでいる。時間がなく、あせっているように見える。

多くの時評家の言う通り、これは正常な人間のやることでなく、自暴自棄の行動というべきであり、比喻でなく悪魔の行動である。一気に神の創った世界を破壊するには（彼らは神を信じている）、核を使うのが最も都合がいいはずである。しかし現時点まで——実は、長崎を最後として——小型の核爆弾さえ使われたという報告はない。なぜか？

時評家は誰もが、ひとたび米露直接の戦争になれば、必ず、核戦争になるはずだと言っている。「ワシントンは“ニセ旗”で、新しい悪の枢軸国を核戦争に引き込むか？」という論文では、「彼ら」はロシアを挑発するのに、9・11のような“ニセ旗”作戦を使って、ロシア機に扮装した米機によって、自軍（米軍）を攻撃し、これをロシアの仕業と宣伝して、核戦争を正当化する可能性があると言っている。これはアメリカの常套手段で、十分考えられるシナリオである。世界の人々は常にこれに騙されるか、（アメリカに媚びるために）騙されたふりをしてきた。このシナリオでも核戦争を前提にしている。

しかし大戦争にはなっても、核戦争にはならないと信ずべき理由がある。その根拠はデイヴィッド・ウィルコックの報告にある。不思議な核の無力化（neutralize）という現象が起こっていると、彼は他の場所でも言っているが、『ザ・シンクロニシティ・キー』では、「インディア・デイリー」の次のような記事を紹介している（p.455）——

インドの科学者たちは、地球外人が、インド、パキスタン、中国のそれを含む、世界中のすべての核ミサイルの作動の仕組みを不能にすることのできる、非常に特殊な能力をもっていることを理解しつつある。…

アメリカもロシアも、過去 60 年に数回、この現象を経験してきた。中国もこの効果を

経験し、過去には、アメリカや他の国がこの問題を起こしているのだろうと疑っていた。彼らは核施設を地下深くへと移設したが、不能化効果はなくならなかった。

インドの科学者によれば、もしある国が、世界全体を破局に導くほどの核ミサイルを使おうとしているのを、地球外人が知ったときには、彼らは直ちにその核爆弾を無力化するだろう。

あるイギリスの報道は、地球外人たちはあらゆる核施設と、それらの世界中の正確な場所を非常によく知っていると言っている。これら無人の UFO がこれほど多く地球へやってくる主たる理由は、人間が作りつつあるすべての核爆弾を見つけるため、そこにはスーツケース核爆弾のような、テロリストが作って運ぶようなものまで含まれる

もちろん、このことは、核保有国の首脳はみな知っているはずだが、それを発表するはずはない。ひた隠しにして核軍縮会議などをやっている。それでいいのであって、核兵器は大戦争の抑止力として働けばよい。ただその場合、猜疑心が抑止力になるだろう。侵略者は自分の側は不能化されたが、相手側は機能するのかもしれないと思うだろう。ただ、この記事による限り、これら善意の ET は、平等にすべての核兵器を無力化するようである。そして残念ながら、核以外の通常兵器には干渉しないようである。

ウィルコックは、我々を助けてくれる ET と、悪玉の ET がいて、見えない次元で争っているという。（彼は“知りすぎた人”であるために、絶えず狙われ、何度もウェブサイトを遮断されている。）だとすると、彼らの闘争と、地上の我々の悪に対する闘争は並行して進行していることになる。近い将来、Disclosure（大開示）と大文字で言われるような出来事が起こって、我々は信じられないような体験をするという。

ここに言われているようなことが本当だとすると、「彼ら」の行う悪は無制限でなく、許される限度があることになる。そして彼らはそれを知っているのだという。ここで思い出されるのは、旧約聖書の「ヨブ記」に出てくるサタンである。彼は神に挑戦してヨブの信仰を試し、いじめるのに先立ち、神に許可を得た。神は、ヨブを殺さない限りどんなことをしてもよいと言った。サタンはヨブにあらゆる苦難を与え、徹底的に苦しめたが殺さず、ヨブは立ち直って再び栄えた。これを、通常兵器に象徴されるあらゆる苦難と、核兵器に象徴される「殺すな」という掟に読み替えてみたらどうだろう。我々は全体としてヨブの苦難を通過するが、信仰を貫く限り、全体としては生き残るだろう。この比喩は過酷か？ しかしこの種のことは覚悟しておかねばならないと思う。